

3.一般的な水準を基準とした作業・生活能力評価

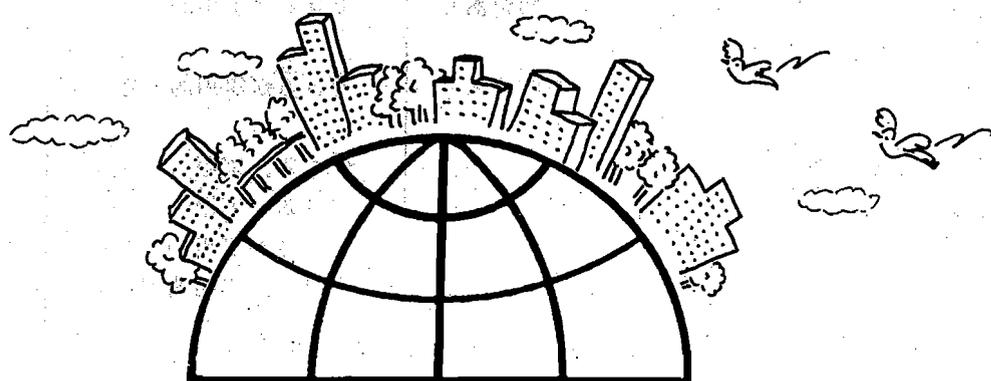
能力評価項目	Aさん	Bさん	Cさん
働くことへの関心	十分にある	十分でない	十分にある
日常生活をおくる上で必要な生活動作が自立しているか	問題なし	問題なし	やや問題あり
就労中、問題のある医療措置の必要性	なし	なし	ややあり
就労に必要な基礎的体力	問題なし	問題なし	問題なし
本人が必要とするときに支援してくれる身近な人が期待できるか	期待できる	期待できる	期待できる
日常的に利用する身近な公共交通機関を使った外出ができるか	問題なし	問題なし	単独ではできない
最低限度の自己管理と対人関係に問題を生じない程度の社会生活	問題なし	問題なし	問題なし
手指の強調動作による作業などの遂行	やや問題あり	問題なし	問題なし

4.就職状況

項目	Aさん	Bさん	Cさん
就職年月日	1992年3月16日	1989年5月8日	1990年11月15日
職業	他に分類されない労務者	金属工作機械工	総務事務員
勤務時間	8時～17時 (8時間/日)	8時15分～17時 (8時間/日)	8時30分～17時10分 (8時間/日)
就業形態	常勤	常勤	常勤
休業形態	その他	完全週休2日以上	週休1日

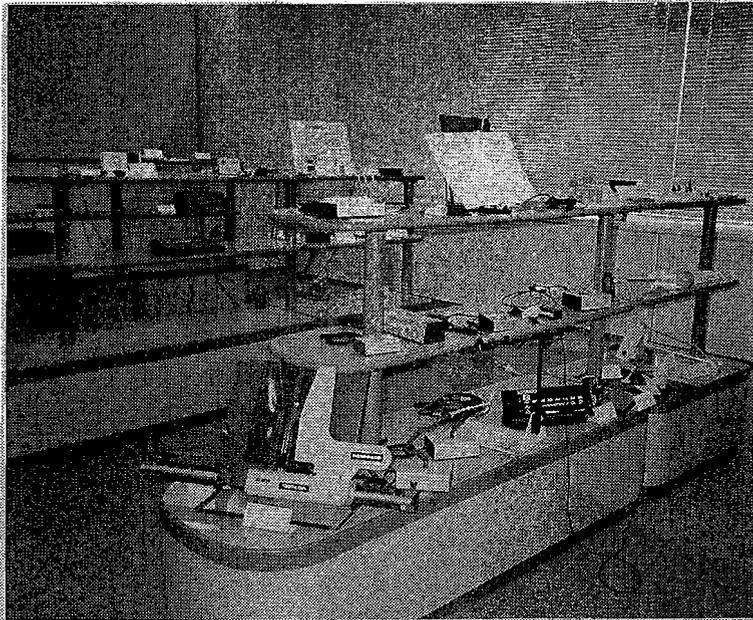
7.職場改善 <<人的環境・制度等>>

改善・考慮項目	Aさん	Bさん	Cさん
相談員、カウンセラーの配置	行った	行った	行った
健康管理への配慮	将来的に考慮する	行った	行った
労働条件への配慮	行った	行った	とくに行わない
社員旅行、リクレーションへの配慮	行った	とくに行わない	行った
作業補助者の専任化への配慮	とくに行わない	とくに行わない	行った
他の職員への教育、啓蒙への配慮	行った	行った	行った
管理職への教育、啓蒙への配慮	行った	行った	行った
研修、社員教育の方法の改善	行った	将来的に考慮する	行った





この人が「金子直未さん」です！



「隠れプロップ」こと、金子直未さんのご案内で、援助機器のコーナーを拝見しました。紙面の都合で、写真のみになってごめんなさい。

読者の皆様も幕張方面へお越しの節は、ぜひ総合センターを訪ね、様々な機器に触れてみて下さい。

合い言葉「プロップ！」と叫ぶと、金子さんが登場して下さるかも(^_^)。

援助機器に関する質問のふりをして、実は「金子さん、大阪に遊びにおいでよ～」と誘いまくる、うめ吉でありました。(ナミねえ)

FLANKER表紙絵がCD絵本に!

-- コンピューターと私 --

鈴木 純子

「FLANKER」の読者の皆様、いつも表紙と詩を描かせていただいております私こと鈴木純子が、初めて本文中でお目にかかります。どうぞよろしくお願いいたします。

私は今、CD絵本を制作中です。

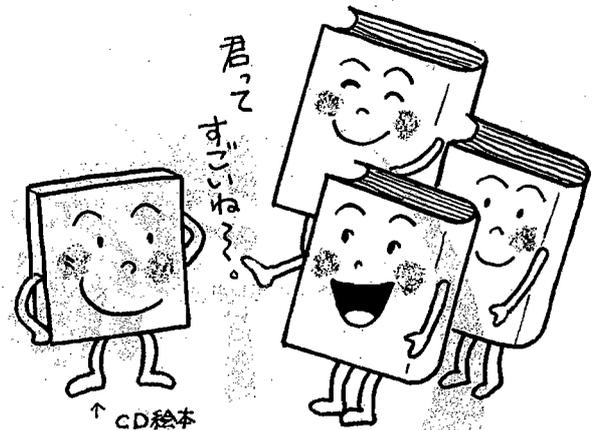
プロップ・ステーションには、パソコン・ユーザーの方がたくさんお集まりのようですが、実は私、自慢じゃないけどメカ音痴なんです。その私がなぜCD絵本を制作しているのか……。

全てはあのナミねえの「ねえ、純子さん」という、ニッコリ笑顔のお誘いから始まりました。

私のメカ音痴は、車のボンネットの中を見ると寒気が走り、飛行機だって、あんな鉄の塊が空を飛ぶわけがない!と思って海外旅行にも行ったことがない、というほど。

まあ、車のエンジンとコンピュータをいっしょくたにするくらい、メカとは無縁の人間だったので(コンピュータ好きの皆さん、お許し下さい)。

でも世の中には、コンピュータの魅力にとりつかれた人が居るもんなんですよー。



プロップ役員で、ナミねえから私の洗脳役(?)を命じられたS氏は、CD絵本制作の話のついでに「いかにコンピュータが素晴らしいものか」夜中の12時から延々と力説しはじめ、最後は「絵筆を捨てよ! マウスを持って! それで全てが解決される!」と絶叫する始末です。ほとんど新興宗教の世界……。

人生をここまで狂わせるコンピュータっていったい……と、私のコンピュータ恐怖症は、いよいよ増すばかりでした。

私がすっかり恐怖におののいているというのに、次なるナミねえの電話は、

「某所で、コンピュータ・グラフィック講座の募集をしてるから、応募してごらん。ハガキを出したらきっと当たるよ」

というもの。

もちろん私は素直に「はい」と返事をしたけれど、ハガキなど出しません。「抽選にもれた事にしよう」と、とっさに企んだのです。

ところが、ナミねえはやっぱり、そんなに甘くなかった。ナミねえは私の名前で、数通のハガキを出していたのです。

「良かったねえ、1通だけ当たったよ!」

私は泣く泣く押しつけられた当選ハガキを手を、グラフィック講座に出かけました。

かくして私は、生涯触れることがないと思っていたマウスを、生まれて初めて手にする事になったのです。

しかし、嗚呼、忌み嫌っていたコンピュータの逆襲でしょうか?

多くの受講生の中で、私のマウスだけが故障して、すべりが悪くなっていたのです。もちろん、初めてマウスに触る私にそんなこと分かるわけがありません。



悪戦苦闘すること2時間。講座が終わり、お猿が描いたような絵を前に呆然としている私に、マウスが故障していた事が告げられたのです。

そんな風に、コンピュータとすっかり相性が悪くなってしまった私が、今、なぜCD絵本の制作なんてやれているのかというと、今回の絵本のプロデューサーであり、デザイナーでもある辻並さんのお陰です。

辻並さんは、プロップの協力会社の一つ「フラム・アソシエイツ」というデザイン・ハウスを主宰しておられるのですが、絵本制作に関わる全てのコンピュータ操作を、実は彼がして下さっているのです。

私はボタンやマウスを全く触ることなく、原画とストーリーのコマ割原稿を辻並さんに渡すだけ。そして「こうして欲しい」「ああして欲しい」「このキャラクターはこんな風に動いて欲しい」とディスカッション。(ほとんど、わがまま!)

そして次の週に、進行具合を見に行く、という次第です。(楽しいな!ルンルン)

でも、辻並さんがコンピュータ(機種はMac)を操作しているのを見ていると、なんだかとても簡単そうに思えるのが不思議。メカ音痴の私でもMacの前に座って、Mac自身に教えてもらいながらやれるんじゃないか・・・と思い始めている今日この頃です。

さてさて、そのCD絵本ですが……。これが、無限とも思える広がりを持つてるものなんです。本の形にすると「全集にしくちゃ、収まりませんね」と某編集者に言われた複雑なストーリーの私の作品が、すっきり収まってしまふ不思議さ。「登場人物が多すぎて、目が回りますよ」と別の編集者に指摘もされた多彩なキャラクター達が、完璧に分類され、いきいき動き出すこの面白さ!もう、やめられません。

今や私は、殆どコンピュータのセールス・ウーマンと化し、友人の絵本作家たちに宣伝し回っています。でも、私と同じくらいメカ音痴の彼等に、理解できるわけなんてないですよ、ふふ・・・!

今回のCD絵本の主人公は、もちろん「FLANKER」の表紙を飾ってきたグラン・マーマレード マジカル・ビレッジの住人たち。

音楽も、プロップの会員であり、30年間ジャズとクラシックに溺れて来たという足立さんが、素晴らしいオリジナル曲の数々をプレゼントして下さいました。

こうして、私のCD絵本は着々と完成に向かっています。なんとか12月までに完成させ、クリスマスには皆さんのお手元に届けたいと思っています。

どうか皆さん、鈴木純子のCD絵本に、ご期待とご声援をお願い致します!!



クマさん登場!

(プロップNET ID124 TEDDY)

純子さんのCD-ROM絵本の音楽を担当されている”クマさん”こと足立雅さんをご紹介します。

☆☆ まい・みゅーじっく・らいふ ☆☆

1948年7月、私めは元気よく産声をあげたそうです。母親はお弟子さんに箏曲を教えており、つまり、胎教として純日本式音楽を自然なままに、半ば強制的に行っていたわけです。中学に入るまでは、ふつうのワンパク坊主だったのが、中学生になると、急にオーケストラ部に入る気になってしまい、取り上げた楽器が外見とは全く不釣り合いなフルートでした。無理を言っただけで楽器を買ってもらい、それから猛練習が始まり、二年生の秋にはコンクールに参加するまでになりました。その頃に、ビートルズがポピュラーシーンに登場。なぜか私めは小学生の時にラジオで聴いたジャズに強く心を惹かれていたのです。

高校に通うようになってからは、勉強はほとんど授業中だけ。あとはレコードからの採譜と、音楽部の中でバンドを作り、ジャズを演奏し始める、先生からすれば、随分生意気なヤツであったのでしょう。補導部(あ、懐かしいこの響き!)の先生からにらまれ、それでも気にしないでドカドカジャンジャンやっていました。

<<クマさんを囲むオフラインミーティングにて>>



(ご覧のとおり、まさにクマさんです。)

そんなこんなで、大阪府立大学に入学、早速、軽音楽部の門をたたいて、入部しました。すぐさまレギュラーメンバーとなってしまい、そして、こともあろうか、新入生歓迎コンサートに出る、ということになりました。その後、フルートとサクソホンを担当することになり、阪大、大阪市立大、府立大の合同コンサートを始め、大学対抗バンド合戦、その他いろいろのコンサートに出ることになりました。

それからは、ひたすら好きな音楽に熱中し、大阪のプロミュージシャンと知り合い、より深くジャズにのめりこみ、講義も実習も忘れてしまい、何とか進級はできたのだけれど、卒業という門はとうとう見ることはできませんでした。学校も諦めてしまっただけからは、商売に夢中になり、それから3年ほどで自分の小さな喫茶店を持つことになりました。

生活に多少のゆとりが出てくると、また以前の虫が目を覚ましたのです。つまり、また、ジャズと関わり合うことになったのです。その時に、選んだ楽器がベースだったのです。最初はフルートで今度はベース。かなりひどい飛躍なのですが、自分自身にとっては何の不思議もなく、手に取ったのです。そして、山下洋輔氏をはじめ、日本の有名なプレイヤーと一緒にジャムセッションを繰り返していました。

そのうち、商売のほうは先細り、離婚。息子を引き取ったり、その他もろもろはあったのですが、なんとかそれをしのぎ、とりあえずの職業としてタクシー会社に入ったのです。ちょっと気楽にやりすぎたのでしょうか。その出勤途中で交通事故に遭い、結果、左足切断ということになってしまいました。

事故にあったその時に、まず手を見ました。手は大丈夫、楽器が弾ける。頭は？意識ははっきりしている。で足は？おや、まあ！大腿骨の膝関節の部分がむき出しになってる。こりゃ、切断してしまうだろうけど、とりあえず止血をしなくちゃ、でも、メチャクチャに足が痛い。非常ベルが鳴りっぱなしってえとこかな。あ、だれかやってきた。

「おい、大丈夫か？」

「ああ、だけど、ちょっと手伝ってくれる？いや、なにね、ネクタイで足を縛ってくれると助かるんだけど……」

「ネクタイどこにある？」

「こっち、トレーナーの下になっている、ううっ」

ま、こんな会話をしながら、止血方法を説明し、それから救急車がやってきて、おきまりの担架。これに乗せられるときに、膝下の感覚があったのには、我ながら驚きました、どこかに吹っ飛んでいったと思っていたのですから。

病院に着いてからも、きちんと質問に答え、挙げ句の果てに、手術同意書に自らの手でサインまでして、痛み止めの薬が効いてから気絶したようです。あとは1年7カ月の入院生活。すっかり病院の主になりました。

その入院中に、外泊許可を取って、ライブコンサートを聴きに出かけ、その時にどうしても音楽をやりたい、という強い気持ちからベース（オールドの200万円以上！）の手頃な楽器を買う決心をしたのです。

入院中から、ベースの練習を再開。なかなか思うように指が動かず、また、スタミナも続かなく、いらいらしました。しかし、時間とともに、感覚が戻ってきてある程度まで弾けるようになってからは、練習のレベルもあがり、自分でも納得がいくようになってきました。

そうこうしていた1992年9月、広島から来る女性ヴォーカリストの伴奏をしないか、という話を持ってこられ、すぐさま同意して、どうにかこうにか成功裡にその演奏を終わりました。今年にはいってから、次第に演奏するチャンスがふえてきて、各地で演奏活動しております。

いかがでしたか？ 本当はもっといろいろ楽しいお話をお寄せいただいたんですが、紙面の都合でご紹介できずに残念です。クマさんには次号から音楽に関するコーナーを受け持ってもらう予定ですので、その中で、おいおいお話しして戴きましょう。
(げんた)



PROP NETWORK from 金沢

---加賀百万石の城下町・金沢からのほほえみだより---

ほほえみネット・金沢 信介

FLANKERの読者のみなさま、こんにちは！
私たちは、石川県金沢市内にホスト局をおく
「ほほえみネット」の運営をしています。



「ほほえみの石川大会」

平成3年に石川県で開催された、全国身体障害者体育大会（愛称「ほほえみの石川大会」）では、初めての試みとしてパソコン通信情報サービス「ほほえみネット」が運営されました。

大会本部と会場をパソコン通信で結ぼうというもので、身体障害者と健常者のボランティアによって運営されることになりました。

NTTやパソコン通信ホスト協議会をはじめ、聴覚障害者のための手話ボランティア、移動制約者のための送迎ボランティアなど、多くの方々の手助けのなかでパソコン通信の講習会を開き、準備を進めました。「ほほえみネット」は、競技記録や選手インタビューなどの情報をスピーディに収集・発表して注目を集め、大会に華を添えることができたのです。

パソコン通信情報サービスは、その後の山形大会「輝きネット」、徳島大会「うずしおネット」に引き継がれ、大会の伝統になりつつあります。

「ほほえみの会」の結成

「ほほえみの石川大会」の閉幕後も、「ほほえみネット」は、あるネットのボードを借りて運営していましたが、自前のホスト局を持ちたい！という要望も強く、また、今後も交流を続けていくことを目的に、平成4年に「ほほえみの会」を結成しました。

「ほほえみの会」では、車いすバスケットなどのスポーツ・オフライン会や忘年会などの行事を開いたり、サーカスを団体観覧するなどの活動を続けています。

金沢市の北陸電気通信監理局（郵政省）が設けた「パソコン通信の福祉分野に関する調査研究会」で会の活動が紹介され、その後、「テレコム懇談会（県内の電気通信業者の業界団体）」が、パソコンネットワークの福祉利用と国際交流の促進を目的に開催した、「日韓パソコンネットワークフォーラム金沢」に招待され、電気通信や福祉行政の関係者と交流し、会の活動をアピールすることができました。

「ほほえみネット」の開局

自前のホスト局も、関係者の理解と支援をうけ、金沢市の心身障害者福祉施設「のぞみ苑」内にNTT回線とホストパソコン設置場所を確保することができ、本格的運用の運びとなりました。

会員に限ったクローズドネットとして運営していますが、福祉機器展や福祉まつりなどのイベントに参加した際にはゲストパスワードを発行して、パソコン通信を体験してもらっています。

また年内には身体障害者を対象としたパソコン通信の講習会を予定し、広く参加の呼びかけをしています。

在宅・在施設のネットワーカーも

七尾市にある身体障害者施設・青山彩光苑の桶屋善一さん(ぜんちゃん)も「ほほえみの石川大会」以来のネットワーカーです。

ぜんちゃんは施設内の公衆電話に音響カプラを接続してアクセスしています。金沢市や富山市のホスト局と離れていることから、電話料金も高くなり、公衆電話料金が値上げされるなど状況は厳しくなっています。

ぜんちゃんは四肢と言語に障害をもっていますが、「季刊わたぼうし」という新聞の制作の中心になり、10年近く発行を続けているがんばりやさんです。ネットには、記事もアップされています。

パソコン(NEC98ノート)と、DTPソフトによる「季刊わたぼうし」の制作にもチャレンジし、富山市の授産施設「生きる場センター」の自費出版・郷土出版などの原稿ワープロ起こしの作業もしています。

江沢さん(ハンドルネーム:七尾城さん)はその名のとおり、七尾城のそばに住む、車いす生活の在宅障害者です。

ワープロ通信でのアクセスで、地元のネットでも活躍中です。ぜんちゃんと助けあって「生きる場センター」の仕事をしています。

「生きる場センター」では、パソコン通信局「LIVEネット」を運営しており、できあがったワープロファイルは、このネットを通じて授産所のパソコンへと送られています。

カップルの誕生も

「ほほえみネット」の活動で出会い、ゴールインしたカップルもあります。

その1組である城下さん夫妻は、この春から県営住宅に新居を構えています。ご主人の健一さん(ハンドルネーム:監督さん)は、電機メーカーに勤めています。ハンドルネームのとおり、少年ソフトボールの監督さんをするなどスポーツマン、ネットのシスオベです。車いすの若妻、由香里さん(ぶーちゃん)は、ネットのアイドルです。ぶーちゃんはネットの「小さな喫茶店」というボードのシグオベで、すてきなレスポンスがもらえますよ。監督さんとぶーちゃんがゴールイン

するまでの深夜・長時間にわたるあつあつチャットは今でもネットの語り草です(おいおい誰か見ていたのかい^^;)。

結婚式では、ネットのみんなでおおいに盛り上がりました。



「ほほえみネット」のカップル誕生

金沢耳より情報

ネットワーカーのみなさん、加賀百万石の城下町・金沢のお宿は「シテイモンドホテル(0762-24-5555)」へどうぞ。全室モジュラー杰克完備で、パソコン・ワープロ通信ができます。なお、平成元年に、北陸東海車いす市民交流集會がこのホテルで開催されています。

それではみなさん、さようなら。

ほほえみの会

〒921 金沢市額新町2丁目78-12-305

中村隆一(会長)

TEL&FAX 0762-98-5732

富山生きる場センター

(富山LIVEネット)

〒930 富山市今泉312

TEL&FAX 0764-91-3385

BBS 0764-32-2791

応援してます!私たち!!

日本総研4人組

日本総研HyperCardTeam参上

(1) ラブレターをあなたに

芝野真次

通称「おたく」こと上杉先生に勧められて、現在ではすっかりプロップの活動にのめりこんでしまっている自称「寡黙でまじめな」芝野です。(もし、わからない人はプロップのマック講習会でもっとも声の大きいしゃべり続けている人間といえ、おわかり頂けるでしょう)

今日はいつも思っていることについて一言。

いつもいとおしいという気持ちを持っていたいと思います。たぶん今も「家内や子供・仕事。。。」に精一杯のラブレターを書いています。つらいことはなぜかいつでも起こっています。先週(8/18)には結構好きだったおばあちゃんが天国にいらってしまったり、真剣に仕事をして誰も認めてくれなかったり。。

それでも、よく思います。みかえりを求めるからつらいのだと。。だからラブレターを多くの人に出し続けようと思います。相手の人が自分をどう思っているかを考えるのではなく、とにかくいとおしい、そう思いたいのです。

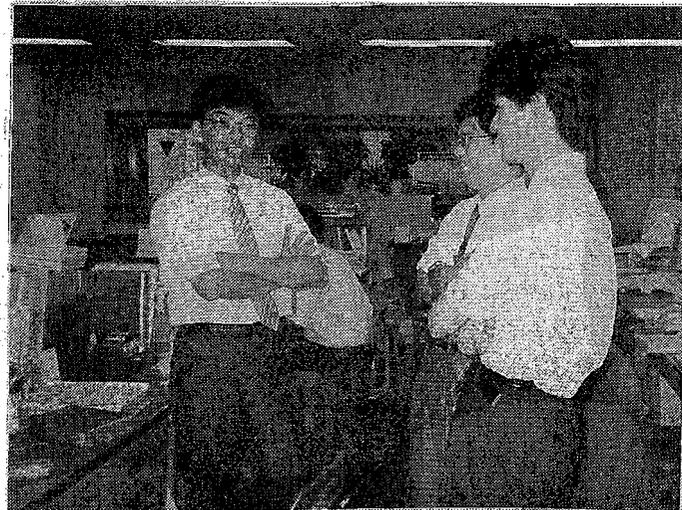
谷川俊太郎って人はこんなことを書いています。「普通ってのは真綿みたいな絶望の大量と/鉛みみたいな希望の微量が釣り合っている状態」

(谷川俊太郎:夜中に台所でほくはきみに話しかけたかった/青土社)って。。だから「鉛みみたいな希望の微量」がよく見えるようにいとおしいものを多く持っていたいと思います。

いつでもあなたにラブレターを、もちろん返事などもらう勇氣はありませんが。。

とある社員の日 Part1

やほやほ!!



CPUがEXだよ。

バラバラじゃあか

いちめっこの秘密会議?

(2) 各メンバーの正体

上杉栄二

自分のことはいまさら自己紹介するまでもあるまい、世界征服を企む悪のプログラマーたるこの私が今回紹介するのは同志である3人のプログラマーである。

もちろん、並のプログラマーではない。(誰だ? 「並以下だろう」などと言うのは。) 世にも珍しいハイパーカードを特に専門とする3人である。

まず一人目が六城、人呼んで「居眠りの鬼」。新人研修以来、毎日のように居眠りを続ける居眠りのプロ。(彼の研修を担当したのが私だが、毎日居眠りする奴はこいつだけ。) なにせ、仕事ばかりか、プロップのセミナー会場まで来て居眠りをする愚か者である。ちなみにこいつが個人で所有しているのがQuadra800、「猫に小判」とはこのことではないか。

二人目が西島、人呼んで「ローンレンジャー」。個人でQuadra950(それもメモリーが64メガ、ハードディスク820メガというとてもないマシン)を持ち、そのローンと車のローンで首が回らないという困ったちゃん。

そして、その二人のボスキャラが芝野さん。往年の名機SE/30をフルカラーにまで拡張しまくって使ってる人。我が社ではハイパーカードを本格的な開発に使い始めたきっかけを作った人で、現在のハイパーカードセミナーの中心的人物。

まだセミナーが始まった当時は私一人だったが、この3人が参加してくれたおかげで電子手帳プロジェクトも順調に進行しつつあります。

(3) 西島のたわごと

西島祥隆

どもっ! 西島です。上司の芝野、上杉両氏に誘われ、プロップのセミナーに参加するようになって数ヶ月、受講生の皆さんからも気軽にお声を掛けて頂けるようになり、大変喜んでおります。といったところで、所感など・・・。

その1) セミナーに参加して圧倒されてしまうこと

なんと言っても受講生のパワー! 私、びびりまくっております。毎週きっちり復習されて、次の週にはお教えした事以上のスタックを見せて下さいます。いいかげんな事を教えると次の週にはきっちり突っ込まれてしまいます。セミナー前日、講義用のスタックを慌てて作ってる私とはえらい違いだあ。受講生の皆さんの努力には本当に頭が下がります。私もまだまだ努力しなければ、受講生の皆さんと釣合がとれないですね。

その2) セミナーに参加中、夢中になっていること

最近、マンツーマンでスタック作成に当たっているのですが、時間の経つのが早いこと、早いこと、あつと言う間にセミナーの終了時刻になってしまいます。「そろそろ終わって下さい」と声を掛けられるまで講師、受講生とも気が付かない。かなり両者共に夢中になってやっております。「ん~どうしましょうか? こうかな? テストだあ! あれ?」といった風に盛り上がってます。セミナー終了と同時にどっと疲れが出ますが、充実感を伴う疲れであり、心地良く感じられます。講義もこうなってくるとかなり楽しいですね。

とある社員の日 Part2



いちめの現場 (左からU氏、S氏、R氏、N氏)